西二小だより

４月号

平成３０年　４月　６日
足立区立西新井第二小学校
校長　吉川　浩司

がんばれ、西二っ子！

校長　　吉川　浩司

西新井第二小学校がめざす児童像は、次の四つです。今回は、年度初めにあたり、この言葉に込められた思いを綴ります。

「進んで考える子」

考えるというと、まずは勉強という言葉が浮かんでくると思います。そう、勉強は大切です。時々「勉強だけがすべてじゃない。」というセリフを耳にすることがありますが、それは、真剣に勉強と向き合い一生懸命にやった人だけに許される言葉です。まずは、全力で学びましょう！人の話をしっかりと聞き、自分の考えをもち、お友達と意見を交わして、知力・学力を身につけてください。そして、自分で判断して行動のできる人になってください。なぜという素朴な疑問は、常に文化を発展させるきっかけでした。

「仲よく助け合う子」

お友達と二人でいて、二人ともとてもお腹がすいていたとします。目の前におにぎりが一つあります。みなさんはどうしますか。多分、ほとんどの人が半分ずつにして分けると答えるでしょう。でも、それはどうしてですか。友達がかわいそうだから？独り占めはよくないから？友達に恨まれたくないから？…答えに相応しい言葉を探すと思いますが、幸せは分かち合うほど大きくなるということをみんな心のどこかで分かっているのです。目先の損得という定規を持たず、みんなの幸せは自分の幸せと自然に思える心を失わずに自分を大切にして、そして周りの人も大切にできる優しい人になってください。

「心と体をきたえる子」

健康でいること、平凡であっても普通に暮らせることがどれだけ幸せかと気付かずに、人は毎日を過ごしてしまいます。甘やかしてご機嫌とっているだけなのに、褒めて育てるなんて言葉で大人がごまかしている時代。欲しいものも簡単に手に入れられる時代でもあります。そんな現代だからこそ、西二っ子には、思い通りにならなくても我慢のできる心、困難に直面しても乗り越えられる強さを備えてほしいのです。人に何かをしてもらうことを待つのではなく、自分で自分を試そうとする心と体を持った挑戦者になってください。

「最後までやりぬく子」

諦めがよくて潔いというと聞こえはよいですが、言葉を換えればそれは何の努力もしようとしない人ということです。努力が必ず報われるとは限りません。しかし、努力をしたということは、必ず自分の力となります。なげやりな言い訳の決まり文句でもある「どうせ…」という言葉は、それを言った時に自分の可能性にカギをかけてしまいます。子どもたちには、未知数の能力が潜んでいます。すぐにあきらめない、自己否定をしない、自分の力を信じて進める西二っ子でいてほしいと願っています。